



毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた
「日本伝道の推進を祈る日」です

共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを
2教区（東京は支区）ずつ紹介します。
全国の教区・教会・伝道所を覚えて
祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

日本基督教団伝道推進 基本方針

- 祈祷運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」
振替口座 00140-7-293436

祈りの課題

関東教区

- ナルドの壺献金運動を通して、受給教会の伝道が進みますように。また、献金に参加することで、共に伝道に参与できますように。
- 豪雪地の伝道の上に。特に雪害に遭っている妙高高原教会のために。

郵便振替 00140-3-67727

「日本基督教団関東教区」

東北教区

- 2022年度、新たに策定される東北教区長期宣教計画が主の御心にかない、用いられるように。
- 2022年3月16日の地震で被災した人々に主の助けが与えられるように。被災した教会の復旧・復興が前進するように。

郵便振替 02200-7-9490

「日本基督教団東北教区」

東北教区

宮城・石巻栄光教会員で「一般社団法人シャロームいしのまき」理事長の大林健太郎さんは、2011年の東日本大震災以来、石巻で地域に仕える働きを担っています。シャロームいしのまきは、2010年より、北海道「浦河べてるの家」の理念に学びつつ、精神障害当事者と家族・支援者を中心に、石巻地域に根ざした精神保健福祉活動を行っています。この世にあって、生きることに困難を強いられている人たちが、互いの弱さを強さとし、それぞれの可能性を生かすべく集っています。

東日本大震災で石巻は甚大な被害を受け、シャロームいしのまきのメンバーの多くも被災しました。そのような状況にありながら、2011年5月には精神障害当事者たちによる「土曜ミーティング」を再開。2014年に一般社団法人となり、2018年には宮城県からの認可を受けて、就労継続支援B型事業所「就労サポートセンターべてるの風」をスタートさせました。べてるの風では石巻の基幹産業である水産業の復興・再生・活性化の実現を目標に、障害を抱える利用者が、地域企業から委託



大林健太郎さん

された軽作業や販売に従事しています。そのほかにもこれまで、6回にわたり「障がい者で町興しシンポジウム・セミナー」を開催し、障害当事者の社会活躍について啓発してきました。

「私たちの行いは大河の一滴にすぎない。でも、何もしなければ、その一滴も生まれない」（マザー・テレサ）。大林さんのメッセージです。今後も石巻の地で、困難を抱えた人々に寄り添い、共に悩み、共に喜びながら、神と人に仕える働きを継続していきます。」

（東北教区総会副議長 関川祐一郎）

関東教区

関東教区はナルドの壺献金による互助に取り組んでいます。この献金運動は関東教区内の一人の信徒の提案により1986年に始まりました。

年間1200万円（22年度）を目標に、1人1日10円を教区の伝道のために捧げます。謝儀互助（22年度は13教会・伝道所予定）を中心に、緊急互助（教師と家族の病気や災害支援、隠退教師復帰時の年金額減額支援）・教団年金互助・退職金互助の4本柱で行われています。また「ナルド基金」として大規模災害時の謝儀支援に備えています。コロ



教区内の信徒が制作した益子焼の「ナルドの壺」を持つ熊江秀副議長

ナ禍の緊急謝儀支援にも用いました。

ナルドの壺献金は教区連帯の柱です。関東教区はこれまで多くの自然災害に直面してきました。その度に教えられるのが主にある連帯の恵みです。信徒の提案によって始められたこの献金運動は、主に捧げられたナルドの香油のように教区全体を祈りと喜びの香りで包み、連帯の恵みで満たしています。

（関東教区総会副議長 熊江秀一）
1988年に教会の門をたたきました。会社生活をとおして醜く汚い社会と、それに漬かっていく自分が嫌になったのです。

地区の集会で「平衡資金」という言葉を知りました。財政的に豊かな教区と厳しい教区とのバランスを取るためのシステムと知り感動しました。教会は互いを思い合う世界であるかわかり、洗礼を受けました。

関東教区ではこの互いを思いやる気持ちをナルドの壺献金として具現化しています。教職も信徒も一致協力して捧げます。今は信徒同士の交流も限られています。ナルドの壺献金をおして多くの教会、信徒と交流できることをうれしく思います。「さすが教会の世界はすばらしい」という思いが私の信仰生活の支えとなっています。

（茨城・竜ヶ崎教会員 平野和雄）